

いちごの輸出促進を図るためのIPM体系の構築

背景と課題

今、日本は少子高齢化が早いペースで進行し、国内の食市場は縮小傾向にあります。一方、世界の食市場は今後拡大すると予想されており、本県においても農林水産物の輸出強化を図るため、様々な取組を行っています。

しかし、輸出をする上での大きな課題として、相手国が求める残留農薬基準値を満たす必要があります。

研究の目的

本研究では、「いちご」の輸出拡大を目的に、相手国が求める残留基準値を満たし、かつ、病害虫の被害を最小限に抑える技術として、化学農薬だけに頼らず様々な技術を組み合わせた総合的病害虫・雑草管理「IPM」技術の体系化を検討しました。

研究の内容 および成果

◎残留農薬基準値が厳しいと言われている「台湾」への輸出を想定し、IPM体系を構築しました。

	育苗	育苗/定植	ビニル被覆		収穫					
	7~8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
炭疽病	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易エタノール噴霧法により炭疽病菌の潜在感染を調査(リスク管理) ・多作用点接触活性作用剤(アントラコール顆粒水和剤、オーソサイド水和剤80、ジマンタイセン水和剤等)とシグナル伝達作用剤(セイビアフロアブル20)の併用による徹底防除 									
うどんこ病	気門封鎖型薬剤(サンクリスタル乳剤)と化学薬剤の併用による防除				気門封鎖剤(サンクリスタル乳剤等)で対応					
ハダニ類		苗を高濃度炭酸ガスに処理(図1)		天敵保護シート(図2)によりミヤコカブリダニを放飼		チリカブリダニを放飼	チリカブリダニを放飼	粘着くん液剤等の気門封鎖剤で対応		
アブラムシ類	露地にソルゴーを播種	<ul style="list-style-type: none"> ・定植時にアクタラ粒剤等を処理 ・施設の空きスペースにソルゴーを播種 ・露地のソルゴーに発生したアブラムシを投入 		チェス顆粒水和剤で対応		コレマンアブラハチを放飼	粘着くん液剤等の気門封鎖剤で対応			
ハスモンヨトウ		フレバソフアブル5等で対応								
アザミウマ類		施設外周に乱反射シート(タイベック)を敷設								スピノエース顆粒水和剤等で対応



図1 苗の高濃度炭酸ガス処理によるハダニ類防除技術



図2 天敵保護シート



図3 「台湾の残留農薬基準値に対応したイチゴIPM体系マニュアル(徳島県版)」

生産者のみなさまへ

今回、作成したマニュアルを御活用いただき、積極的にいちご生果実の輸出を図っていただきたいと思います。また、今回、構築したIPM体系は、輸出を目指す栽培に限らず、農薬による防除効果が低下した病害虫にも活用できます。

問合せ先 徳島県立農林水産総合技術支援センター
資源環境研究課 病害虫・鳥獣担当
電話 088-674-1954